

学校教育目標 (教育方針)	豊かな心と主体性を育み、幅広い知識と高い学力を身に付けることで、多様な社会に対応できる創造性豊かな人材を育成する。	
3つの方針 (スクールポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生涯にわたり探究心を持って自ら学び続け、問題解決や新しい価値の創造に取り組むことができる生徒 ○ 多様性を尊重し他者と協働することができ、国際社会の持続的発展や平和に貢献することができる生徒 ○ 地域社会の発展を考え、答えが見えない課題に対してもグローバルな視点からアプローチすることができる生徒
	生徒をどう 育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒一人一人の興味・関心が引き出され、深い学びと進路実現を可能にするバランスの取れたカリキュラムの編成とICTの活用や少人数によるきめ細かな指導 ○ 地域や社会と連携した探究的な学習や体験活動等を通じて、教科横断的な学び、協働的な学びを推進するとともに柔軟な思考力を醸成 ○ 生徒を主体として運営される様々な行事を通して創造的企画運営力やリーダーシップ、チャレンジ精神を育成
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習意欲と知的好奇心を備え、向上心を持って学び続けることができる生徒 ○ 自ら進んで人と関わる中で、他者との対話を大切にして自他の個性を認めるなど、仲間と協力して物事に取り組める生徒 ○ 広く社会に目を向けることができ、地域や世界の課題をジブンゴト（自らの課題）として捉えることができる生徒
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域社会の発展を考え、主体的に活動する中で課題を発見し、価値観が異なる他者とも協働的に課題を解決することができるグローバルリーダーの資質・能力を、限られた教育活動の中で、どのように効果的に育成していくか。 ● 他者との関わりに配慮が必要な生徒への対応を合理的に考え、実施する必要がある。 ● これまで行ってきた飛騨地域をフィールドとした探究活動については定着してきたが、理系的な視点や研究手段を用いた探究活動が少ない。 	
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学習指導	生徒に、主体的で協働的な深く学ぶ力を育成するため、授業改善や教員研修を実施する。
	生徒指導	他者との関わりに配慮が必要な生徒など支援が必要な生徒を早期に発見し、即時に組織で対応策を考え、各分掌で可能な支援を実施する。
	進路指導	今年度から始まる新課程入試に対応する学力を身に付けるとともに、生徒や保護者に将来を選択するために必要な情報を発信する。
学校経営	高等学校DX加速化推進事業（以下「DXハイスクール事業」）の指定1年目として、ICTを活用した探究活動の推進の基盤を作る。	

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的な取組・方策	県教育振興基本計画 での位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学習指導	主体的で協働的な深い学びを実現するため、観点別評価の研究と授業改善、教員研修の充実を継続する。	8	施策Ⅱ-8	具体的な取組内容とその後の変容 教育課程に関する研究及び進捗状況 理系的な探究活動の取組状況 欠課が多い生徒に対する学習支援方法の確立	A	○ 要訪訪問により観点別評価に関する共通理解を図ることができた。 ○ 自主的な教員研修：進路支援方法に15名、主体的に学ぶ授業方法に25名参加。 ○ 配慮を要する生徒に対するオンライン授業の要項が整った。 ○ 2年の101件の全探究テーマ数のうち理系的テーマ数は40件。 ▲ 教員間の授業参観の活性化がより必要。 ▲ 個々に合わせた適切な支援体制の構築。	
	深い学びと進路実現を可能にするバランスの取れたカリキュラムの研究を継続する。	8	施策Ⅱ-8				
	DXハイスクール事業により設置される情報機器を用いて、理系的な探究活動も実施する土台を作る。	9	施策Ⅱ-9				
	配慮が必要な生徒に対する学習支援の方法を検討する。	3	施策Ⅰ-3				
生徒指導	講話や体験などを通して、自他ともに存在を大切にすることを育成する。	1	施策Ⅰ-1	命を大切にする講話や体験の実施状況 犯罪に巻き込まれないための講話の実施状況及び生徒の状況 生徒の実態調査から早期発見につながった回数及び専門家や外部機関への接続状況	B	○ 講師(高山警察署)による交通安全講話を実施。生徒の意識を高めることができた。 ○ 高山消防署の協力を得て避難訓練実施。 ○ 情報モラルLHRでグループ単位で生徒が主体的にSNS対応などを議論した。 ○ 生徒の実態把握から、いじめ事案等の早期発見、早期対応につながった。 ○ S相との連携し効果的な対応ができた。 ▲ S相の長時間利用に対する効果的な対策。 ▲ 夏季休業明けに登校できない生徒が増加した。	
	インターネットやSNS等から生じる事故や事件に巻き込まれない力を育成する。	1	施策Ⅰ-1				
	生徒の実態把握から、配慮が必要な生徒を早期に見出し、専門家の意見を踏まえ対応する。	3	施策Ⅰ-3				
	配慮が必要な生徒に対して、外部機関と連携しながら、学校として組織で対応する。	3	施策Ⅰ-3				
進路指導	新課程入試に必要な学力の分析と、生徒がその学力を身に付けるための学習を支援する。	8	施策Ⅱ-8	新課程入試の情報収集や学校内での情報共有の状況 生徒の学力向上の取組状況と成果 生徒や保護者への進路情報の発信状況 進路実現につながる外部リソースの活用状況	B	○ 希望者に対して以下の学習支援を実施。 1年：月講座、夏季補習 2年：月講座、夏季補習、集中学習会 3年：放課後補習、夏季補習、集中学習会 ○ 外部と連携し、中学生への学習支援やインターシップ等、生徒の進路選択を支援。 ○ 進路講演会やPTフォーラムで情報発信 ▲ 科目数が増加し外部模試の校内実施が土曜1日だけでなく金曜の放課後にも実施したが、7限終了後だと負担が増加する。	
	調査を通じて生徒の実態を把握し、その情報を学校全体で共有して、生徒の進路実現を図る。	13	施策Ⅱ-13				
	新課程入試に関する情報等、将来の進路選択につながる情報を生徒及び保護者に発信する。	13	施策Ⅱ-13				
	生徒の進路実現への取組に対し、外部リソースの有効的な活用を図る。	13	施策Ⅱ-13				
学校経営	DXハイスクール事業の指定校として、今後の探究活動に活用できる情報機器を整備する。	9	施策Ⅱ-9	DXハイスクールに伴う情報機器の整備状況及び情報機器を用いた研修状況 ハラスメントや働く環境についての職員調査状況 ICTや外部リソースの活用状況と、それに伴う働き方の変容	B	○ 探究ルームに以下の情報機器を整備。探究用ノートPC(10)、iPad(10)、分析用PC(5)、画像処理用PC(1)、デジタルペーパー(6)等 ○ 外部機関から講師を招き、1年次生に対して探究におけるデータの活用講座を実施。 ○ 職場全体のストレス分析で、高ストレス者の割合が4.8%(教育委員会全体7.9%) ▲ 情報機器の整備が12月末までかかったため、探究活動に活用することができなかった。来年度、いかに活用するかが課題。	
	DXハイスクール事業により設置される情報機器を探究的な学びに結び付ける教員研修を実施する。	10	施策Ⅱ-10				
	職員が心身ともに健康で、気持ちよく働くことができる職場を目指す。	28	施策Ⅳ-28				
	ICTや外部リソースの有効的な活用等を進め、教員の働き方改革を目指す。	27	施策Ⅳ-27				

来年度に向けての改善方策等

- ・ 大学入学共通テストの受験科目が増加したため、外部模試実施時に土曜1日と前日で受験した。今年度は、前日を45分授業とすることで対応したが、日課表を、月曜6限+火～金7限から、月～木7限+金曜6限と変更して対応する。
- ・ DXハイスクール事業では、今年度は探究ルームに情報機器を設置しハード面で整備した。来年度は、1・2年度の探究活動に活用できるように、生徒に対する研修や講座などを増加し、生徒のデータ活用能力を向上させる。
- ・ 研修主事を中心として、進路支援部が主催する研修や教員が自主的に実施する研修が増加した。ミドルリーダの牽引を促し、職場の雰囲気より良くして、職員間のコミュニケーションとともに、主体的に学ぶ雰囲気を今年度以上に向上させる。
- ・ 長期休業後に登校できない生徒を減少させる手立てについて、改めて学習検討委員会等で検討し改善する必要がある。(長期休業前後の生徒への働きかけ、長期休業中の課題等についての検討等)
- ・ 生徒支援や教育相談、進路支援、探究活動支援等について、外部リソースを今年度よりも効果的に活用し、生徒の深い学びとともに、教員の働き方改革にもつなげていく。
- ・ 保護者及び職員の年度当初の業務の減少、個人情報管理のため、生徒証の作成や生徒調書についてデジタル化を実施する。

学校関係者評価

実施日：令和7年1月31日

- ・ 進路支援、生徒支援、DXハイスクール事業等で、外部人材の活用をしていることはよい。次年度は今年度以上に、外部人材を活用してもらいたい。
- ・ 情報モラルについて、生徒自身が主体的に考える工夫されたグループ活動の取組は評価できる。情報に関する問題は常に変化するため、最新の情報を持つ専門家から重点的に研修を受けることも必要である。
- ・ 自主的な教員研修がうまく実施されている。教員の負担が増える問題もあるが、年齢を超えた研修など相乗効果がある研修を続けることよい。
- ・ 今年度DXハイスクール事業で整備した情報機器について、来年度は、多くの生徒に活用してほしい。理系の一部の生徒が生成AIなどの最新の技術を学んで探究活動をするにも必要であるが、文系の探究課題でデータを扱ったり、画像処理をしたりなど、コンピュータが得意ではない生徒にも活用できる工夫が欲しい。
- ・ 情報モラルや交通安全について多くの取組をしていることは評価できる。自転車事故、SNSの危険性、闇バイト防止等については、さらなる指導を望む。
- ・ SCやS相との連携や研修等で、問題事案に対する対応は評価できる。より早期に対応できるように、対応マニュアル整備など、どの教員でも、同じように早期対応できるように準備する必要がある。